

(様式第1号)

研究No. (記載不要)	15 - 文 - 10
-----------------	-------------

平成 15 年度配分 研究成果の概要

研究名	新しいイタリア語教育のあり方の研究				
配分を受けた 特別研究費	文化政策学部長 特別研究費 500 千円				
研究者氏名 (代表者)	学部名	学科名	職	氏 名	共同研究の 場合の分担
	文化政策	国際文化	教授	高田和文	
共同研究者					
発表の方法 (予定で可)	1 紀 要 静岡文化芸術大学紀要		号 数	第 5 号 ( 17 年 3 月 発行)	
	2 学会等での発表 学会等名：		発表日 (発表 予定日)	平成 年 月 日	
	3 その他 発表の方法：本学におけるネイティブ 講師によるイタリア語課外授業 専門家によるイタリア文化セミナーの実 施		発表日 (発表 予定日)	平成 16 年 2 月 19, 20 日 平成 15 年 6 月 6 日	

注：配分を受けた翌年度の6月末までに提出

(研究の目的等)

日本における新しいイタリア語教育のあり方を探るため、1) 全国規模のイタリア語学習者の実態調査、及び2) 本学学生を対象としたイタリア語モデル授業、を行なう。これらの結果を踏まえて、日本のイタリア語教育の実態についての基礎資料を作成し、イタリア語のみならず他の外国語教育の見直しのための手掛かりを得る。

(研究の実施方法等)

1) 大学におけるイタリア語学習者数の調査については、前年度にすでに行なったイタリア学会名簿による郵送調査に加え、イタリアと関連の深い地中海学会の名簿による郵送調査を行なった。これにより、大学におけるイタリア語学習者の実数についてより正確なデータを得ることとした。また、主要な外国語専門学校、カルチャーセンターなどにおけるイタリア語学習者の数について聞き取り調査を行なった。

2) 本学において、イタリア人ネイティブ講師を招き、平成 16 年 2 月 19 日、20 日の 2 日間にわたってイタリア語の課外授業を行なった。本学でイタリア語を履修する学生約 20 名が参加。

(得られた成果等)

1) イタリア語学習者の実数調査により、日本におけるイタリア語の普及の実態を明らかにするための重要な手がかりが得られた。得られた結果は、イタリア語教育の新しい方法を探るうえで貴重な基礎データになるものと思われる。また、この種の調査はこれまでに行われていないため、イタリア大使館文化部、イタリア文化会館が強い関心を示しており、すでにいくつかの情報交換を行なっている。今後は大使館独自の調査データと照合して最終報告書をまとめる計画である。このような形でイタリアの公的機関の協力を得られたことは、本研究、ひいては本学におけるイタリア語教育への取り組みがイタリア関係者の間で高く評価されていることを裏付けている。

2) 本学におけるイタリア人ネイティブ講師による課外授業は、短期間ではあったがイタリア語を学ぶ本学学生にとり大きな刺激となった。また、この結果、春休み・夏休みを利用したイタリア各地における短期イタリア語研修への参加者も増加しつつある。また、教員の側にとっては、ネイティブの最新の教育法を実際に見ることにより、新しいイタリア語教育についてのさまざまなヒントが得られた。